

屋久島におけるムネスジウスバカミキリの発見

宮本敏行¹⁾・新里達也²⁾

¹⁾ 〒 861-4133 熊本県熊本市南区 2-4-60

²⁾ 〒 162-0053 東京都新宿区原町 319 (株)環境指標生物

Discovery of longicorn beetle of the genus *Nortia* Thomson (Coleoptera, Cerambycidae) from island of Yakushima, Southwest Japan

Toshiyuki MIYAMOTO and Tatsuya NIISATO

Summary: Longicorn beetle of the genus *Nortia* Thomson is newly recorded from Yakushima Is. of Kumage Isls., Southwest Japan. The single male specimen examined is actually determined as the lineage of *N. carinicollis* with a rather wide distribution area between Taiwan and Tokara Isls. of northern Ryukyus. The Yakushima population in question is possible to distinguish from the other local populations of *N. carinicollis* such as the one of Tokara Isls. by several external characters as well as the structure of male genital organs.

緒言

日本産のムネスジウスバカミキリ属 *Nortia* は、異所的に分布する 3 種が知られている。すなわち、琉球列島(吐噶喇列島～先島諸島(～台湾))のムネスジウスバカミキリ *Nortia carinicollis* Schwarzer, 1925, 小笠原諸島のオガサワラムネスジウスバカミキリ *Nortia kusuii* Kusama et Nara, 1973 および南九州のサツمامネスジウスバカミキリ *Nortia geniculata satsumana* Niisato et N. Ohbayashi, 2005 である(Ohbayashi *et al.*, 2005; 新里, 2007)。

本属の既知分布域である南九州と吐噶喇列島の中間に位置する熊毛諸島の屋久島は、かなり以前から本属の分布の可能性が指摘されていたが(ふじた, 1975), その存在が実証されることはなかった。また、もし屋久島に分布するのであれば、南九州の *N. geniculata* 系列か、吐噶喇列島まで分布を北上している *N. carinicollis* 系列のいずれかの種であるのか、生物地理学上の視点からも興味を持たれていた。

宮本は 2013 年夏に屋久島小瀬田林道において、かねてより待望されてきたムネスジウスバカミキリ属の種を採集することができた。採集された唯一の雄個体は、台湾から琉球に分布する *N. carinicollis* 系列の種であったが、近隣の吐噶喇列島の個体群などと比較しても、わずかながら形態上の差異が認められた。本稿では、ムネスジウスバカミキリ属を屋久島から新たに記録するとともに、その形態的特徴についても併せて報告したい。

ムネスジウスバカミキリ

Nortia carinicollis Schwarzer, 1925

Nortia carinicollis Schwarzer, 1925: 20; type locality: Fushoho, Kosempo, Sokutsu, Taiwan.

Nortia pruinicollis Gressitt, 1965: 61; type locality: Mt. Yuwan, Amami-Ōshima I.

Nortia carinicollis pruinicollis: Kusama, 1973: 42.

屋久島産の記載：体長 21.0 mm。色彩は暗い黄褐色で、触角および暗色の腿節端を除く肢は黄褐色。頭部と前胸背板の光沢は鈍い。上翅では銀白色微毛に、点刻から伸びる暗黄金色の短毛が混生する。触角は体長の 1.4 倍の長さで、第 7 節基部で上翅端を超える。前胸背板は大きく、中央付近の最大幅は上翅肩幅の 9/10 の広さ；側縁は緩やかな弧状で、中央付近から後方に向けてやや強く狭まる；背面の中央隆起は細く、前胸背板の前縁と後縁にほぼ届く；1 対の弧状隆起は全面に大きな点刻を備える；両側に小さな顆粒をまばらに備える。上翅は幅広く、肩幅の 2.7 倍の長さで、先端に向けて緩やかに狭まる；先端部はやや斜めに裁断されるが、その裁断面は弱く弧状に膨らみ、外角は丸い。

雄交尾器中央片の腹板先端部はほぼ正三角形で、両側はほぼ直線状に、鈍く尖る先端部に向けて狭まる。側片は幅広く、先端に向けてほぼ直線状に狭まる；先端部中央は浅く窪み、両葉部の先端は突出せずにやや斜め裁断され、比較的短い刺毛を備える。第 8 腹部背板の先端はほぼ U 字状に深く窪み、内縁両側は中央付近で並行となる；外縁先端前はやや直線状に傾斜する。

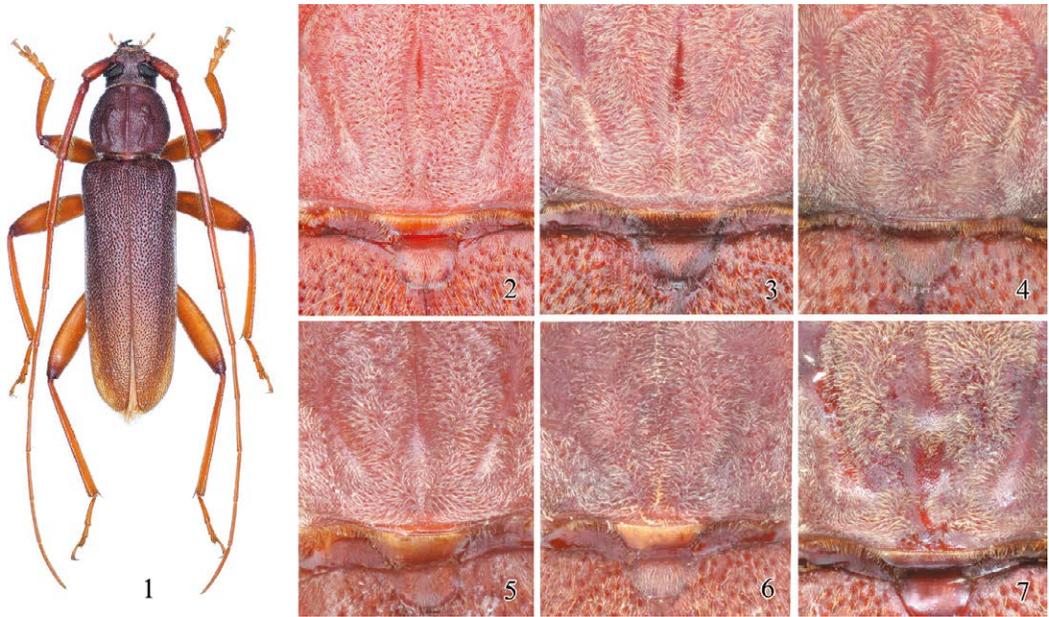


図1-7. ムネスジウスバカミキリ *Nortia carinicollis* Schwarzler雄の全形 (1) および前胸背板・上翅基部 (2-7) . — 1, 2, 屋久島産; 3, 吐噶喇列島中之島産; 4, 奄美大島産; 5, 沖縄島産; 6, 石垣島産; 7, 台湾産.

検視標本: 1♂, 鹿児島県熊毛郡上屋久町 (屋久島) 小瀬田林道 (標高 50 ~ 70 m), 12-VII-2013, 宮本敏行採集.

比較検視標本: 本論文で図示した標本のみを示す. 吐噶喇列島中之島: 1♂, “Nakanoshima Is. / Tokara / Kagoshima Pref. / 24th July 1982 / H. Fujita leg.”. 奄美大島: 1♂, “Yuwan, Amami-Oshima / 18. VII. 1962 / N. Ohbayashi leg.”. 沖縄島: “Yona, Okinawa / Ryukyu / 12-17. VI. 1970 / H. Makihara leg.”. 石垣島: 1♂, “Botanical Garden / Ishigaki I. / Ryukyus / 24. V. 1975 H. Makihara leg.”. 台湾: 1♂, “Lushan Wenchuan / Nantou Hsien / Taiwan / 27-29. V. 1980 / H. Makihara leg.”.

他地域集団との比較: 屋久島で得られたムネスジウスバカミキリは, その分布の連続性から吐噶喇列島中之島産と共通の変異集団と予想していたが, 標本を詳細に検討してみると異なる形態的特徴も見出された.

屋久島にもっとも近隣の個体群である吐噶喇中之島産の上翅は両側がやや平行で長く, 大型個体では雄の触角は体長の 1.6 倍以上になる. 一方, 屋久島産の上翅は先端に向けて明らかに狭まり, 大型個体でも雄の触角は体長の 1.4 倍にすぎない. 前者は上翅端に明らかな外角をもつが, 後者ではその部位はほぼ丸い. 前胸背板上の白銀色微毛は, 屋久島産は吐噶喇中之島産ほかの集団に比べて明らかに短く, 波打つことない.

ムネスジウスバカミキリ属の雄交尾器は, 単純な構造のため特徴を捉えにくい, 詳細に観察すれば地域集団の分類にも有効である. 吐噶喇中之島産の雄交尾器と比較すると, 中央片と側片の各先端部, 第 8 腹部背板の中央湾入部の形状に顕著な違いが見出せる. 屋久島産は吐噶喇中之島産に比べて, 中央片と側片の各先端部は幅広く突出が弱く, 第 8 腹部背板はほぼ U 字状に (半円状でなく) 深く湾入する.

採集状況: 屋久島産の検視個体は, 夜半の 21 時頃に, 夜間採集用の白幕に飛来した個体を採集した. 同夜は, 燈火にあまり飛来することがないクロモンキイロエカミキリ *Zoodes japonicus* Hayashi, 1963 や, その他多数のカミキリムシや甲虫類も得られたので, 甲虫類とくにカミキリの活動に好適な気象条件であったと思われる. 夜間採集を行った地点は, 低地のシイ・カシ萌芽林に囲まれた林道脇で, 周辺にはスダジイや, タブノキ, バリバリノキ, クロキなどが生育していた.

7月の屋久島は, カミキリ採集を目的に毎年多くの人が訪れるが, 不思議なことにこれまでムネスジウスバカミキリが採集されることはなかった. 初発見地となった小瀬田林道もまた有名採集地であり, 同夜も多くの採集者がカミキリを目的に夜間採集を行っていた. このような状況から判断すると, 本種は屋久島の低地照葉樹林に分布するものの, その生息密度はきわめて低いようである.

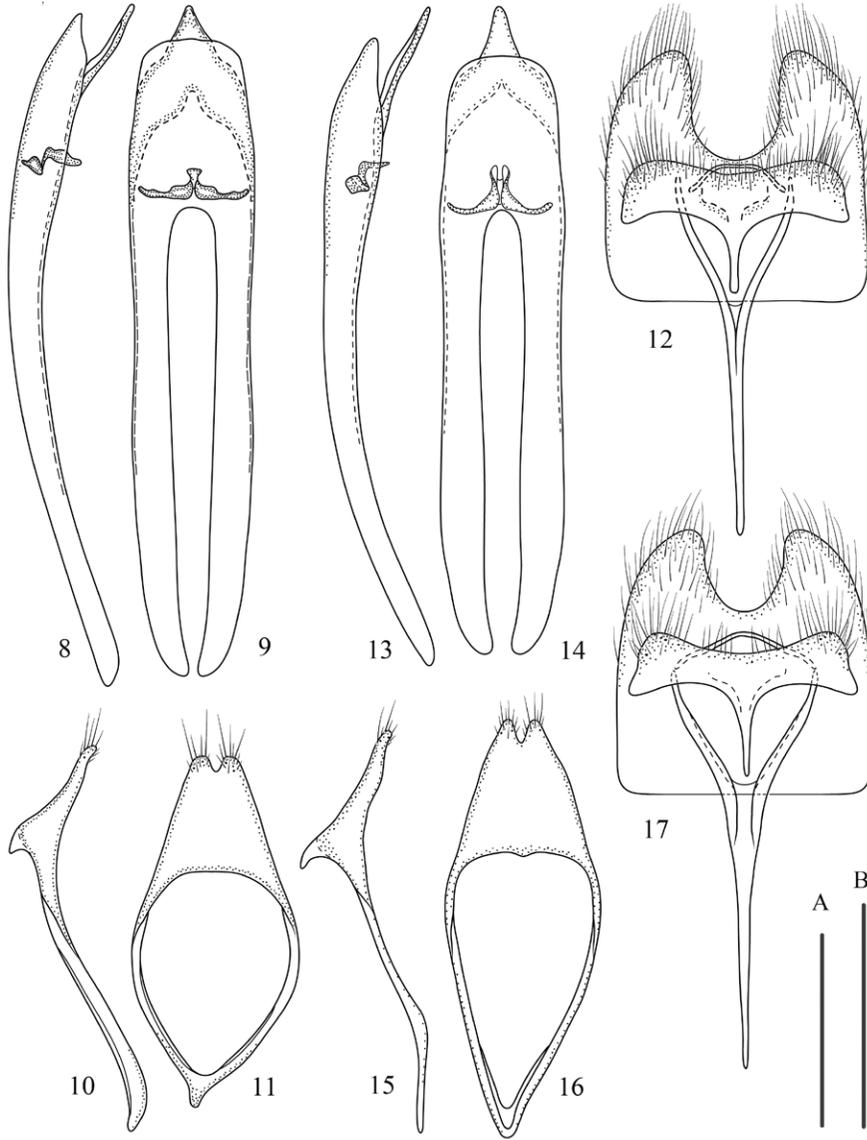


図8-17. ムネスジウスバカミキリ *Nortia carinicollis* Schwarzlerの雄交尾器。— 8-12, 屋久島産; 13-17, 吐噶喇列島中之島産; 8, 13, 中央片側面; 9, 14, 同背面; 10, 15, 側片側面; 11, 16, 同背面; 12, 17, 第8・9腹部腹面。スケール1.0 mm (A: 8-12, B: 13-17)。

考察

ムネスジウスバカミキリは、台湾中部を基準産地として記載された種である (Schwarzer, 1925)。従来は台湾および琉球列島の先島諸島から吐噶喇列島中之島まで広く分布するとされてきたが、今回の発見により、熊本諸島の屋久島までその分布を北進させた。これにより、日本列島では *N. carinicollis* 系列と *N. geniculata* 系列の種が、屋久島と大隅半島の間を横切る大隅海峡で、ひとまずそ

の分布を対峙する形となった。

両系列の種は基本的に異所的な分布を示すが、例外として台湾北部では標高による棲み分けをしていて、低標高地に *N. carinicollis* 系列の種が、高標高地に *N. geniculata* 系列の種が分布している (新里・大林, 2002)。屋久島のカミキリ相は、琉球よりむしろ九州 (とくに大隅半島) との共通要素を色濃く示すことから、同島においても、台湾のように両系列の種が標高による棲み分けをしている

可能性がある。さきに「ひとまず」と歯切れ悪く言ったのは、2種のムネスジウスバカミキリ属が同じ島のなかに側所的に分布することも十分に想定できるからである。

ムネスジウスバカミキリは地異の変異が知られ、奄美大島産はかつて *N. pruinosa* Gressitt という独立種として記載され (Gressitt, 1965), この個体群は後に *N. carinicornis* の亜種として扱われたこともある (草間, 1973)。しかし、草間・高桑 (1984) は「地域差も認められるが個体変異も著し (い)」として、本種が島嶼群ごとに数集団に分けられる可能性に言及しながらも、亜種以上の分類単位に整理することは差し控えている。また、藤田 (1981) は、日本産の本種に「トカラ中之島」、「奄美大島」、「沖縄本島」および「石垣島・西表島」の4つの個体群を暫定的に認めている。

確かに、屋久島産との比較にあげた外部形態の相違は、標準サイズ以上の個体同士の比較では明かであるが、とくに小型個体では特徴が表れにくく、地域間の区別が難しい場合も少なくない。しかし、従来は用いることがなかった雄交尾器の形態は、地域集団ごとに安定しており、有効な分類形質として評価することができる。亜種命名をとまう分類学的整理も十分に可能である。

本種の全分布域を捉えた地域変異については、別の機会に論文を出版する予定である。

謝辞

屋久島産ムネスジウスバカミキリの検討に際し

ては、共同研究者の大林延夫博士から標本ならびに情報の提供を受けた。また、同博士を通じて、藤田宏および榎原寛両氏が採集した貴重な標本を検討することができた。お名前を記して感謝の意を表したい。

引用文献

- ふじたひろし, 1975. 1973 ~ 1974 年カミキリ界の総括. さやばね, (1): 16-34.
- 藤田 宏, 1981. 宮崎県青井岳で採集されたムネスジウスバカミキリ属の1種について. 月刊むし, (124): 39.
- Gressitt, J. L., 1965. [new taxa]. In: Samuelson, G. A., & J. L. Gressitt: The Cerambycidae (Coleopt.) of the Ryukyu Archipelago I. Pacific Insects, 7: 47-81.
- 草間慶一, 1973. 日本産カミキリの生態と分布一覽表. 京浜昆虫同好会編, 新しい昆虫採集案内 (III), pp. 1-156. 内田老鶴圃, 東京.
- 草間慶一・高桑正敏, 1984. カミキリ亜科. 日本鞘翅目学会編, 原色日本カミキリ大図鑑, pp. 249-351, pls. 26-48. 講談社, 東京.
- 新里達也, 2007. カミキリ亜科 (図解検索と種の解説). 大林延夫・新里達也 (編), 日本産カミキリムシ, pp. 252-281, 424-512. 東海大学出版会, 秦野.
- 新里達也・大林延夫, 2002. 日本および関連地域のムネスジウスバカミキリ属. 日本甲虫学会 2002 年次大会・日本鞘翅学会第 15 回大会 (講演要旨集), 18.
- Ohbayashi, N., T. Kurihara & T. Niisato, 2005. Some taxonomic changes on the Japanese Cerambycidae, with description of a new subspecies (Coleoptera). Japanese Journal of Systematic Entomology, 11: 287-298.
- Schwarzer, B., 1925. Sauters Formosa-Ausbeute (Cerambycidae. Col.) (Subfamilie Cerambycinae). Entomologische Blätter, 21: 20-30.

(2014 年 1 月 26 日受領, 2014 年 2 月 23 日受理)

昆虫学研究器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめて出来たステンレス製有頭昆虫針 00, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6 号, 有頭ダブル針も出来ました。その他, 採集, 製作器具一切豊富に取り揃えております。

〒 142-0051

東京都品川区平塚 2 丁目 5 番 8 号

郵便振替 00130-4-21129

電話 (03) 5858-6401 (ムシは一番)

FAX (03) 3784-6464

(カタログ贈呈) (株) 志賀昆虫普及社

◇学会の発行物・バックナンバーの販売委託先◇

昆虫文献 六本脚

〒 102-0075 東京都千代田区三番町 24-3

三番町 MY ビル 3 階

TEL: 03-6825-1164

FAX: 03-5213-1600

E-mail: roppon-ashi@kawamo.co.jp

URL: <http://kawamo.co.jp/roppon-ashi/>